

タイトル	Ogikubo Sharing—共有する文化が未来を描く—
提案者 (所属・代表者)	高田康史、小石川正男、保坂裕梨 (日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科)
整理番号	13
賞	金賞

【注意事項】

本資料は、平成 24 年に杉並区が開催した「これからの荻窪駅周辺まちづくりを考えるアイデアコンペ（以下、アイデアコンペ）」において応募者から提案された一作品です。今後の荻窪におけるまちづくりの方向性を決定するものではありません。

アイデアコンペの詳細については、以下のページをご覧ください。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s094/6497.html>



Ogikubo Sharing

共有する文化が未来を描く

Sharingする获獲まちづくり(提案趣旨)

近年、SNS(ソーシャル・ネットワークサービス)による情報の共有化をはじめ、シェアハウス、オフィスシェアリング、カーシェアリング、ワークシェアリング等による空間やモノ、生活の共有化(シェア)が目覚ましく進展しています。それは、多様化した社会の中で、人々が求める機能性と共有性から生まれてきたものだと思います。しかし、本来共有する文化は、近隣居住における地域コミュニティにあったことを再考できるのだと考えます。共有関係のある暮らしとして、「向う三軒両隣」「地縁家族」「町内会交流」等は、地域での協働関係が育てられてきました。それは、時代や環境が変わっても同様であり、社会や経済、家族、まち、未来を互いに共有/シェア(Sharing:共感・共有・共同・協同・共生・共有)できる、まちの姿を求めていくことに寄与はあると思います。

本計画は、「**Sharing(共有)カタチ**」を核とする新たな文化機能として提案し、街で共有共される街路、広場、空間、コミュニティ、福祉・環境など多面的な視点から、10-20年の時を経て、シェア機能が培って行く(シェア)まちづくりとして育みます。共有文化を推進するまちづくり「**Ogikubo Sharing**」は、住民主体の地域運営(シェア・フレンドシップ)により、地域交流・環境整備・生活支援・活動空間・継承文化として「**分かち合う未来**」づくりを行います。展開するプログラムとして「Town Sharing:まちなみ形成」「Community Sharing:文化形成」「Life Sharing:生活環境形成」を3本軸として、获獲の新たなライフスタイルを提示します。

1) Town Sharingは、共有する領域を育てること、地域デザインとして街路・街区・まちなみ・交通を整備し、シェア・ステーション(拠点)を軸とした回遊性・界隈空間づくりを育てます。2) Community Sharingは、获獲空間として仲間づくりや活動交流支援などアクティブな暮らしを地域住民と共有しながら成長しつづけます。3) Life Sharingは、社会福祉や地球環境、住まいづくりなど私たちの生活基盤である地域共有のあるべき生活を支える関係構築を築きます。

これら3つのシェア活動により获獲の地域環境は、私たちのシェアするコミュニケーション文化により、多彩な希望や期待をもてる暮らしづくりが形成出来るものと思います。

共有する获獲(まち・人・時間)

南北をつなぐコミュニティデッキ
*細路路・広場による回遊性空間づくり
*都市居住による新たなライフスタイル
*「シェア」による新たな获獲文化の形成
*シェアによる地域活性と生活上向
*子ども、高齢者に対応した福祉支援
*共有エネルギーの生産と消費(エコ)
*シェアによる建築空間の再生整備
*サステイナブルなまちづくり文化の成長

A 教会通り商店街(暮らしのシェア)
散策・回遊しながら歩くと、商店街は、地域市民と交流する暮らしの路として再生します。

B 知るバード(緑路)のシェア
緑をつなぐ散策路づくり。緑や花を歩行空間に育て、自然に溢れる緑を共有し育みます。

C 共有する住まい処(居住のシェア)
まちと対話する住まい、地域での協働関係が新たなライフスタイルを形成し、家族を育てます。

D まちのバリエーション(広場のシェア)
街路の再生により、広場空間を育てます。交流活動・防災拠点としてのまちのニワを創出します。

E 暮らしガーデン(共有庭シェア)
共有庭として、菜園や花壇、ふれあいコート、展開し、暮らしの交流拠点として育まれます。

F 地域の居場所(記憶のシェア)
伝承文化を受け継ぎ、多世代交流によるふれあいは、時間を共有し、記憶や絆を深めます。

まちを形成する 街路・広場・拠点・景観・交通のシェアする都市デザイン(地域再生)

まちを共有する都市デザイン(街路・街区・広場・交通・拠点・起点)を形成します。公的領域と私的領域の境界を緩衝する「シェア領域」を新たなデザインルールとして設け、回遊性のある歩行空間・細路路(路地)や展開する広場の形成、建築の再生を行いながら、ネットワークするまちの共有スペースを創ります。

南北を繋ぐ新たなステージ(拠点)づくり
*繋がる获獲ワーク:シェアリング・ステーション
获獲の新たな活動拠点として駅周辺環境を再生します。南北を繋ぐ大きなデッキステージ(シェア広場)を設け、ホームの上層は、モノ・活動・情報共有の中心として創られます。それに伴い、駅界隈の建築群は変化成長し駅前広場やコミュニティ教室等が生まれ、市民の思いの核として成長します。

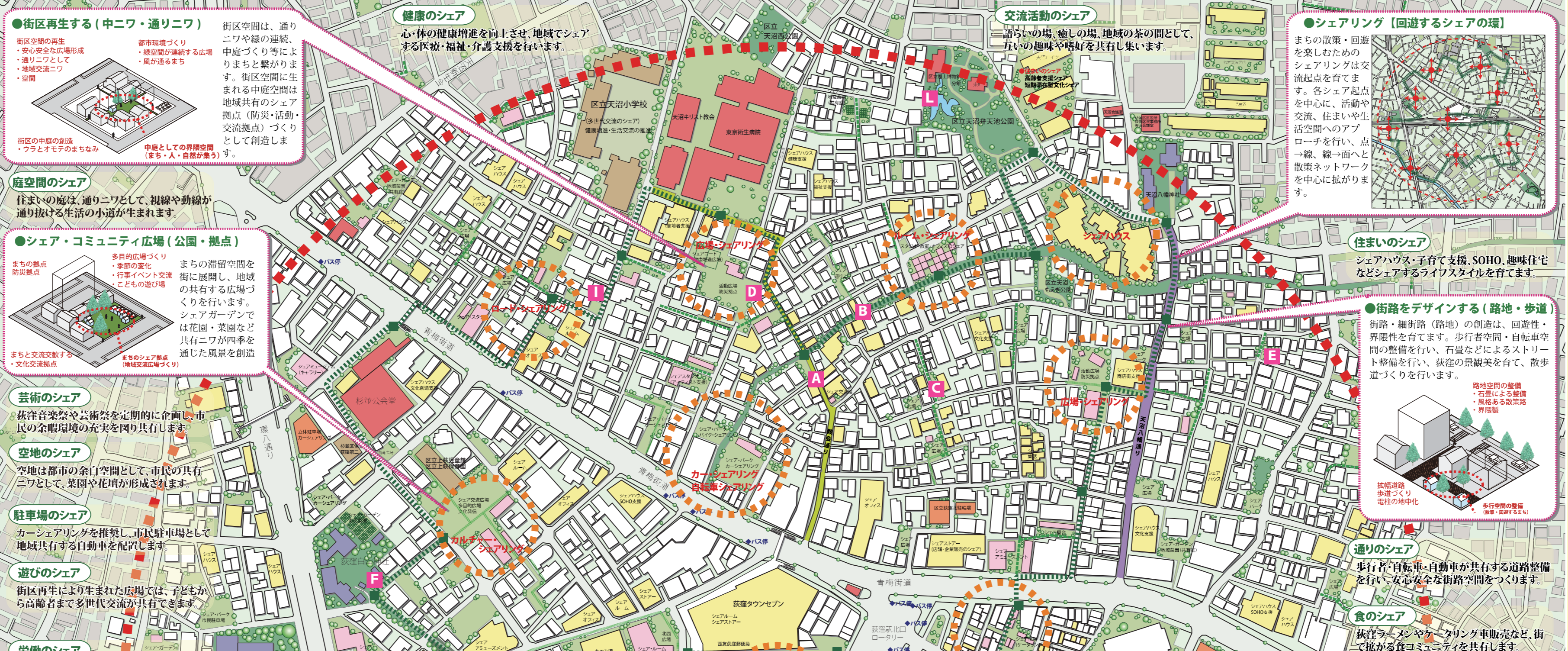
获獲をシェアする 共有するまちづくり「Ogikubo Sharing」を地域運営する(基盤形成)

シェアする文化を育てる
地域運営・協育・継承・絆

Town Sharing / まちなみ形成
共有する地域デザインは、街路、広場、建築空間の共有を軸とし、まちを創ります。共有空間の形成、回遊性、界隈空間を育て、获獲の都市居住の風景を築きます。

Community Sharing / 文化形成
市民参加・地域活動・市民共創のカタチ
新たな文化創造として、市民参加による共有コミュニティを構築します。趣味活動や交流関係がシェアし合う仲間づくりが、地域・暮らしを育て、都市共創の未来を創ります。

Life Sharing / 生活環境形成
福祉・環境・健康
獲獲での住まい・生活を豊かにする。暮らしの共有を創ります。社会福祉・地球環境・まちなみ関係が共有する生活環境共有を推進し、サステイナブルな未来を創ります。



まちを繋ぐ散策路(街路・路地)の回遊性づくり

南北を多目的デッキステージが繋ぎ、拠点を作る。歩行者・自転車の動線確保を行う道路空間の計画。地下空間の回遊性づくりを行い、獲獲を繋ぎます。

自由道路路地(動線整備)
自由道路路地として、歩行者・自転車・自動車が自由に往来できる回遊性を育てます。歩行者空間を2レベルに整備し、歩行空間と自転車空間を共有し、歩行者の安全による歩道整備を行います。

コミュニティデッキ(交流)
歩行者・自転車の動線確保を行う道路空間の計画。地下空間の回遊性づくりを行い、獲獲を繋ぎます。

地下空間の再生(空間整備)
地下空間の回遊性づくりを行い、獲獲を繋ぎます。

駅ビルの再生(建築再生)
駅ビルを再生し、新たな活動拠点として活用します。

まちを繋ぐ散策路(街路・路地)の回遊性づくり
南北を多目的デッキステージが繋ぎ、拠点を作る。歩行者・自転車の動線確保を行う道路空間の計画。地下空間の回遊性づくりを行い、獲獲を繋ぎます。

文化を育成する 共有文化が、新たな活動・交流を育むカタチへ成長する(地域発酵)

获獲の新たな文化として「楽しむ」! 获獲シェア・ライフを提言し、共有するまちの文化づくりを発信します。「遊び」「学び」「働く」「集う」「住まう」「語る」等によるシェアしなごらのコミュニティ形成(仲間づくり)は、互いを育てる文化関係が次世代の文化創造になると思います。

仲間を育てる「シェア・フレンドシップIDカード」
シェアリング推進委員会として、IDカードの発行を行います。共有するモノ・場所・知識などをシェアリング・ネットワークによる参加証明を行います。倶楽部やサークル、シェア企画への交流推進や活動支援ポイント、地域ファンドなど、シェアアブランドは繋がりが広がります。

まちに広がる「シェアリング・ツリー」
使用目的に併せ、羽根幅が変化・変換、組み合わされ、スクリーンや留まり木など、人々の集いのカタチに合わせて、展開します。获獲の景観に溶け込むまちファニーチャー(共有装置)を提案します。



未来へ継承する まちとシェアするアクティブな住まいを提案する(まちなか居住)

シェアする住まい環境は、今日の多様なライフスタイルに対応し、まちと共有する中で新たな住まいづくりを育てます。シェアハウスは建築空間に納まるだけでなく、「仲間・友人」環境「職場」環境「福祉・医療」都市など、获獲のまちのストックや文化と交差しながら生活環境が、まち・住まいにアクティブ性を創ります。また、シェアを通じた関係が獲獲に住まう地域住民とまちの絆として生じます。

地域・都市シェアの関係(地域共生住宅)
教室併用住宅/安心安全防災住宅/通りニワ

自然・四季とシェア関係(環境共生住宅)
パッシブ住宅/エコ住宅/スマートハウス

友人・仲間とシェアする関係(シェアハウス)
子育て住/高層住宅/趣味住宅

福祉支援とシェアする関係(協働住宅)
協働住宅/シェアハウス/高層住宅/オアシス住宅

職(仕事)とシェアする関係(SOHO)
店舗併用住宅/住宅勤務住宅/教室併用住宅

余暇・文化とシェアする関係(滞在型住宅)
滞在型住宅/シェアハウス/高層住宅/オアシス住宅

生活と対話する 共有生活の中で、福祉・環境を支え合う生活支援づくり(生活活性)

获獲での生活は、福祉(子ども・高齢者・親子・障害者・外国人)や環境、防災、健康、就職、学習などでの暮らしの機能を共に支え合う仕組みを育みます。地域住民と生活をシェアすることで、獲獲の社会の絆は、获獲の多世代交流(生活コミュニティ)を育みます。

共有する地域エネルギー源
*エネルギーシェアリング
*エネルギー利用や雨水貯水と利用、地熱利用、再生エネルギー(5R)活動など、地球エネルギーを地域共有する。次世代のまちづくり技術を育てます。

共有するサステイナブル環境
*エコビル・シェアリング
*地域の緑化、ガーデン(植栽・菜園)、共有の環境ネットワークを育て、生態系との共生を育みます。四季や気候を感じながら、環境形成は獲獲型社会への未来を創ります。

共有する交通機能
*カーシェアリング/バイクシェアリング
*自動車や自転車の共有利用(シェア・レンタル)を推進します。駐車・駐輪場の集約化を推進し、交通のネットワークを育みます。また、エコカー・電気力による環境協力を行います。

共有する子育て・学習支援
*グループシェアリング
*子育てをサポートする親子の成長環境を育てます。子ども達をまち(地域)の力で育て、社会・文化体験を共有し、グループ(仲間)による共有する時間・活の場を育みます。

共有する安心安全生活
*セーフティシェアリング
*安心安全まちづくりは、防災・防犯を推進する暮らしです。防災拠点や防犯カメラの設置、住宅の耐震補強は災害が身近になり、ハード面による見守り関係性が地域を守ります。



Ogikubo Sharing MAP S=1:2500

20年後のシェアする获獲のカタチ

住居
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出

公共
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出

商業
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出

文化
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出

環境
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出

交通
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出
*共有スペースの創出